

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：AA 研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(3)－文字研究術語集の構築－(jrp000283)」

2024 年度第 2 回研究会

日時：令和 6 年 10 月 5 日（土曜日）13 時 00 分より 17 時 00 分

令和 6 年 10 月 6 日（日曜日）10 時 00 分より 15 時 00 分

場所：306 室&オンライン

報告者名（所属）

10 月 5 日（土曜日）

1) 落合淳思（AA 研共同研究員，立命館大学）

漢字の字素の交換について

漢字は、異体字において字素（構成要素）が交換されることがある。その際には、漢字の持つ 3 要素である形（字形）・音（字音）・義（字義）が同じものとは限らず、異なるもの間で交換される現象が見られる。さらに、象形性を残した古代漢字の場合、字源（象形性に関わる字形表現）も含めて考えなければならない。本報告では、字素の交換について、形音義源の 4 要素から見た類型を提示した。また、交換の際に複数の要素にわたって影響する場合も取り上げた。

2) 全員

文字研究の術語に関する討議(1)

落合発表に見られるような「文字要素の交換」について、各人の専門とする文字の見地から討議を行った。

10 月 6 日（日曜日）

3) 荒川慎太郎（AA 研）

西夏文字の「不変部首」について

報告者は以前の論考で、西夏文字には「不変部首」と「可変部首」があると定義した。しかし「不変部首」でも置かれる位置によって、筆画に微細な差異がある理由を考察した。それらは A「出現環境における字形バランス、縦横比率の変化」、B「出現環境における筆画、特に右下の形状の変化」に大別される。A は漢字の部首においても同様であり、漢字からの類推と思われる。B は、結局は西夏文字の筆画、特に字形全体から見て右下の形状に制約があることから導かれる。今後は「筆画の整理」に加え、出現可能位置なども検討する必要がある。

4) 全員

文字研究の術語に関する討議(2)

「(1 字中の) 文字要素の重複」について荒川が記述案を提示し、各人の専門とする文字の見地から討議を行った。

対面のみのものであったが、事情により一部の参加者はオンラインとなった。今年 12 月 AA 研で開催予定の、展示会に関する相談も行った。